

関係機関が一体となつた乳質改善の取組

■ JA三豊酪農部会、西讃酪農農業協同組合 ■

(西讃農業改良普及センター 宮崎勝、岸本靖、○植松侑哉)

●対象の概要

西讃地域の酪農家は13戸で、香川県農業協同組合三豊酪農部会（構成員6戸：以下、JAと記載）、香川県西讃酪農農業協同組合（構成員7戸：以下、西酪と記載）の2つの生産者団体にそれぞれ所属して生乳生産を行っている。

●課題を取り上げた理由

西讃地域の酪農家数は、農業者の高齢化などの影響から減少傾向で、農家が出荷する生乳には乳質基準があり、その基準に合わない場合は、基準に応じて乳代から「罰金」が差し引かれ、収益が減少する。最悪の場合出荷停止になるなど、経営に大打撃を与えて廃業に繋がることから、安定した生乳品質の確保が喫緊の課題となっていた。

また、近年、地球温暖化等異常気象に対応した飼養管理や乳業メーカーから求められる乳質基準の厳格化など、新たな課題も出ており、これら課題に対応するためには、関係機関がそれぞれ役割分担・情報共有し、一体的に取り組む必要があった。

●普及活動の経過

1 関係機関一体的な指導体制の構築

関係機関と生産者一体的な支援を行うために、普及センターが中心となり、関係機関（県家畜保健衛生所、JA香川県、西讃酪農協、県農業共済組合、家畜診療所、農業経営課）を一堂に会した、「生乳安全・安心確保検討会（以下、「検討会」という）」を設立し、役割分担を明確化し、情報共有を密に、進めることとした。

2 チェックシートに基づく衛生管理改善指導

酪農家の衛生管理については、酪農家自らが生乳の生産管理の状況を点検し、衛生的な管理を行う「生乳生産管理チェックシート」の取組みが行われているが、年2回関係機関で全戸の酪農家を巡回し、チェックシートの記帳状況を確認するとともに、必要に応じて改善指導を行った。

巡回にあたっては、関係機関が同じ視点で指導できるよう、事前に検討会で「重点指導項目」を定めるとともに、令和元年からは乳業メーカーの参加を要請し、より広い視点で改善指導を行った。



チェックシート巡回指導の様子

3 異常気象に対応した暑熱・防寒対策

暑熱・防寒対策については、普及センターから毎年シーズン前に気象データや家畜診療所のデータを参考にした啓発資料の送付や、園芸資材を活用した暑熱対策の紹介、補助事業を活用した対策資材の導入支援などを実施した。



4 研究活動の支援

日常的な衛生指導から更に一步踏み込んだ新たな取組みを模索していたところ、生産者から「乳質改善の勉強がしたい」との声があがつたことを受け、普及センターが中心となり西讃独自の取組みとして酪農研究会を開催した。



第1回西讃地区酪農研究会の様子

●普及活動の成果

1 酪農家の衛生管理意識の向上

初めは、チェックシート用いた衛生管理に消極的な農家も多く、記帳を十分行っていない農家も見られたが、年2回の巡回指導時に、粘り強く記帳を呼びかけ続けたことで、農家の意識が変わり全戸でチェックシートの記帳が行われるなど、生乳生産管理意識の向上に繋がった。

2 様々な目線で乳質改善指導

これまで生産者団体毎に行われていた巡回を、2団体合同で実施することで、新たな目で指導できた。その後、乳業メーカーも参加し、より広い視点で改善指導を行える体制ができた。

加えて、生乳処理室の衛生管理レベルを表す指標として、四国生乳販売農業協同組合連合会が独自に設けている「生乳処理室衛生美化認証」(以下、美化認証)への取組みも進んでおり、6戸が基準をクリアして認証を取得した。

これにより、各農場において搾乳から出荷まで一貫して衛生管理レベルが向上した。



衛生管理の改善が進んだ搾乳処理室

2 暑熱・防寒対策の定着

園芸資材を活用した取り組みやすい暑熱対策が行われたほか、補助事業を活用した屋根への断熱材の施工、子牛用の防寒用ジャケットやカーフハッチの導入、自作での防寒対策資材の活

用など、各農家がそれぞれに合った対策を選択・実施することで、年間を通して生乳品質が安定してきた。

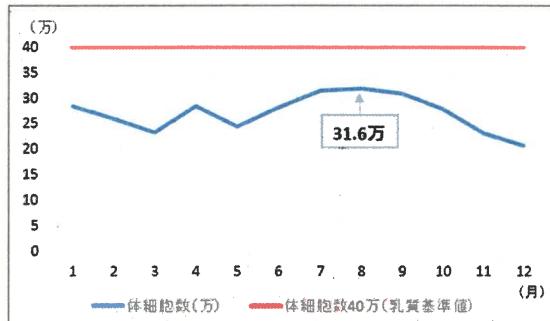


図-1 2019年1~12月体細胞数の推移

3 研究活動支援の成果

酪農研究会の講師として、公益財団法人中国四国酪農大学校の関先生を招き、「農場HACCP認証」の取組状況などの講演を行うとともに生産者との意見交換を行った。意見交換では、生産者から積極的な質問が寄せられ、生産者の乳質改善への意識の向上が図られた。

●今後の普及活動の課題

1 GAP・HACCPの取組みの推進

現在、取組みが進んでいる美化認証については、生乳販連独自の制度ではあるものの、食品を扱う施設として一定の評価を得るものである。今後はさらに、食品衛生法等の一部改正により、食品等事業者にHACCPに沿った衛生管理の実施が義務付けられるなど、生乳生産段階において農場に求められる衛生管理は、更に厳しくなることが予想される。

今後そのような情勢に対して、GAPや農場HACCPなどにも対応した農家指導を進める必要がある。

2 異常乳対策の検討

異常乳については、その発生メカニズムが明らかになっていないことが多いことから、関係機関と連携し、各農家の現状を正確に把握し、必要に応じて飼料会社、乳業メーカーに情報提供を依頼し、「酪農研究会」の場で生産者へ情報発信したい。

3 サシバエ対策の実証

近年、温暖化に伴い、サシバエの発生が増加しているが、有効な資材も開発されていることから、暑熱・防寒対策と並行して、シーズン前の啓発・防除の徹底等を図りたい。